

関西の反原発運動の一翼を
二人三脚で歩んだ40年
みなさんの温かいご支援で継続できました

—若狭ネットニュースの編集後記から見えてきた—



1994年9月福井県越前町役場前にて
戸別訪問署名活動の合間に

書き手 久保 きよ子 & よしお

発行：若狭連帯行動ネットワーク

大阪連絡先：〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-401 久保

TEL 072-939-5660

e-mail dpmz005@kawachi.zaq.ne.jp

ホームページ <http://wakasa-net.sakura.ne.jp/www/>

はじめに

2020年5月、新型コロナ肺炎の流行は、全世界を席卷し続け、全世界を恐怖におとしめています。人類とウイルスとの総力戦を呈しており、大戦争となってきました。

そんな中、若狭ネットニュースは、30年間で181号を迎えました。コロナ禍の下では、ニュースを持ち込んでの小学習会もままならず、対話もはばかれる事態に遭遇しています。仲間との会話もままならず、街頭での対面署名活動も困難な状況となっています。活動が制約されている今、この際、もう一度これまでの「編集後記」などで、どんな思いで、ニュースを発行してきたのか、見つめ直す作業をしてみようと考えました。

反原発の若狭ネットの取り組みと編集後記を見つめ直すことで、新たな発見があるのかどうか、また、過去の姿から今を見つめ直す良い機会となるのではないかと思います。

20世紀末から21世紀初めは、原子力発電所についても、世界中が大きな転換点を迎え、原発開発から手を引く動きが顕著になってきました。それは、1986年のチェルノブイリ原発後に顕著となったのです。この事故により、ひとたび、原発事故が起こると、人類の命と健康の破壊だけでなく、経済社会そのものが崩壊の道を歩むことになることを体験したからです。

ところが、日本は、この時代の流れに逆らうように世界一の「原発長寿国」をめざそうと、原発推進を打ち出し続けたのです。新たな時代へ、つまり脱原発へと転換できなかったために、ここ20年の間、日本のエネルギー政策は、世界から大きく後退してしまいました。再生可能エネルギーが全世界で普及し、拡大し、原子力や石炭の衰退傾向が一層明らかになる中、よりはっきりとそれが感じられるのです。

チェルノブイリ事故を教訓にできなかった日本では、2011年3月にフクシマ原発重大事故を経験してしまいました。事故から10年めを迎えても、事故は収束せず、放射能汚染水が発生し続け、燃料デブリの実際の状況さえつかめず、廃炉・汚染水対策は「絵にかいた餅」と化し、収束の見通しすら立たない状況です。貯まり続けるトリチウム汚染水を「500倍以上に薄めて海洋放出」すべきだとの暴挙を繰り返ししようとしています。

私たち若狭ネットも、この機を利用して、フクシマ事故の前後10年の時代を振り返り、どのように考え、どのような提言をしてきたのか、見直したいと思います。そして、「チェルノブイリ事故を『経験』しながら、なぜ、フクシマ事故を未然に防げなかったのか」、「社会生活でも原発推進では大きなひずみが現れていたにもかかわらず、大きな反原発運動へと発展させられなかったのは、なぜなのか」、考える機会にしたいと思います。

私たちも70才を超え、高齢化を迎えています。だからこそ、どうすれば、より説得力のあるものを提示し、次の世代にバトンタッチできるのか、より明確な教訓を指し示すことができるのか、模索し続けたいと思います。私たちのたどってきた歩みの中に見える優れた点、間違っていた点、もっと徹底すべきだった点などを包み隠さず記録として残し、反省し、あきらめずに粘り強く闘い続けながら、次世代へ託すことが責任ある者の姿だと思うからです。

この時期にもう一度、真摯に見つめ直すことで、これまでの運動の姿とともに、次の運動の姿が、より鮮明になればと期待するところです。50才前後を中心にまとめてみました。読み進めていただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

(1996年4月もんじゅ廃炉デモ)



☆若狭ネット第49号(1999/4/17) 今から20年前、私が50歳の時の発行ニュースです。

20年後の私たちの姿を予期するような記事がありました。

「編集後記」

・1999年3月27日の反原発討論集会、「TMI事故から20年をふりかえり、これからの20年に臨む」というテーマがありました。私も現在50才です。この20年間、「いろんな人とお会いでき、それが、私の活力になったのでしょうか」と、ふりかえています。

「今後の20年というと、私も70才になるなあとと思っています」と、本日の集会では、もっとお年を召していらっしゃる諸先輩が矍鑠（かくしゃく）としておられるお姿を拝見し、私も、こんなすてきな人になれたらなあと、と思っています。

反原発運動、楽しくやりましょう。

きよ子

○みなさんは、TMI事故って、ご存じですか？

これは、1979年3月28日、アメリカのスリーマイル島原発で、炉心溶融事故が起こり、乳飲み子をかかえたお母さんや子どもたちが、バスで避難している状況が全世界に流され、原発事故の恐ろしさを人類が知った出来事だったのです。私たち2人もこの事故から原発の恐ろしさを知り、和歌山県の日高町で建設予定の原発に反対する運動に加わったのでした。

若狭ネット49号の見出しは、―― TMI事故20年 反原発討論集会で新たな決意！ これに続いて、チェルノブイリ事故13年4月26日 関電へ「申し入れ」をおこなう！――

このとき 関電に申し入れをおこなったところ、関西電力の広報部課長でさえも次のように言わざるを得ないところまできています。原発重大事故の危険性は、「神のみぞ知るところがあるのかもしれない」と。つまり、予測し得ないシナリオで、起こり得ないはずの重大事故が起こることを言い表していたのです。

私たちは、若狭の原発でも重大事故の危険が迫っていると、次のように警鐘しました。

○関電を始め各電力会社は、原発の安全よりも原発の経済性をより追い求めていること。

原発にかかるコストを火力発電よりもなんとしても安くするために、原発の「高燃焼度化」や原発の「長期連続運転」をおこなっていること。

つまり、定期点検を合理化したり、短縮しようとしており、重大事故に至る危険性は、ますます高まらざるを得ないと、警鐘しました。

しかも、関電などは、いったん建ててしまった原発は、できるだけ寿命を延長して長く使おうとしていること。今まで聞いたこともない60年運転をめざすというのですから、啞然とさせられます。

ところが、あれから20年経った今日、こともあろうか、「安全第一」という国ですら、新たな検査制度を導入して、原発寿命延命策を支援するという方向に進んでいるのです。

この新たな検査制度では、電力会社が点検して「安全です」と言えば、国もそのまま認めるというもので、原発の「高燃焼度化」や原発の「長期連続運転」も可能となるのです。「原発が安全かどうかの責任は電力会社にある」として、電力会社に「一義的責任」を課しているのです。国は、検査合格の判定を行わず、事故が起これば、電力の責任とするのです。

この新検査制度は2020年4月1日に導入されましたが、その20年以上前、すでに原発の経済性が失われたため、定検合理化による定期検査期間の短縮や運転期間の13ヶ月から24ヶ月への延長がすでに課題として

浮上し、若狭ネットは反対運動を展開していたのです。

○ 高浜原発では、プルサーマル計画

49号ニュースは続きます。

「高浜原発では、プルサーマル計画を打ち出し、世界中でやったことのないプルトニウムの濃度が高い高燃焼度の本格的な一大「実験」をしようとしています。

このプルサーマルは、核暴走が起こりやすく、制御棒が効きにくいという性質を持っています。なんとしても計画を撤回させたいと、反対運動を展開しました。

ところで、「プルサーマル」って、知っていますか？

プルサーマルとは、運転した原発から出る使用済燃料を再処理し、取り出したプルトニウムを軽水炉でMOX燃料として利用するものです。プルトニウムはみなさんご存じの長崎原爆の材料になった核物質です。これを高速増殖炉「もんじゅ」の核燃料として利用する計画を進めましたが、1995年12月にナトリウム漏洩・火災事故を起こし、5年後に試運転を開始したものの、燃料交換用炉内中継装置の落下事故で再び停止し、2016年には停止したまま廃炉になりました。これ以上の運転継続は危険すぎたのです。プルトニウム利用の本命「もんじゅ」が倒れたために浮上したのが、「高速増殖炉実用化までのつなぎ」にすぎなかったプルサーマル計画なのです。軽水炉原発で使用的是ウラン燃料ですが、プルサーマルではMOX燃料(ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料)が使われます。このMOX燃料は、ウラン燃料より高くつき、しかも、制御するのが難しいのです。チェルノブイリ原発事故のような核暴走事故が起こりやすくなり、危険なのです。

若狭には、15基の原発がありますが、さらに敦賀3・4号炉の増設の動きがあり、15基めの「もんじゅ」では、ナトリウム火災事故が起こり、原発から出る使用済核燃料は、原発サイト内で貯蔵されていますが、どんどんたまり続けています。満杯になったら、原発の運転を止めねばならないため、貯蔵をさらに増強しようとしています。いやがうえにも危険な核と一緒に生活せざるを得ない時代につき進んでいます。一日も早く原発を止めていかねばなりません。

日本列島が、地震の活動期に入ってきたのではないかとされていますが、阪神・淡路大震災以降、各地で、ひんぱんに地震が起こっています。

敦賀周辺地域は、「そろそろ動いてもおかしくない時代に突入してきているのでは」という地震学者もいます。原発で直下地震が起これば原発重大事故は避けられません。」

☆若狭ネットニュース第63号2001年1月16日 今から20年前、きよ子52才、よしお51才のとき。

このニュースから、原発推進の矛盾の激化と、闘いのスローガンの焦点化がはっきりと現れてきます。

初頭のあいさつ

地球環境を真剣に考える21世紀が明けました 今年の2月で関西電力が起こした美浜事故から10年 この10年の若狭ネットの運動をふり返り、新たな出発をしましょう。

皆さん、新たな年を迎え、心新たにされていることでしょう。

私たちは皆さんとともに、21世紀の最初の1年を見すえながら、脱原発が当たり前の世の中になるよう全力でがんばるつもりです。今年もよろしくお願いします。

2月18日に「美浜事故10年をふり返り、21世紀に臨む」交流と討論のつどいを開催します。この10年間をともにふり返り、新たな出発点にしていきたいと思えます。

きよ子



(1991年2月12日 美浜2号事故徹夜交渉)



(2・9 美浜事故3周年 関電本社前行動)

○若狭ネットが誕生した必然性？！

1991年2月9日、関西電力の美浜2号原発で、蒸気発生器細管のギロチン破断事故が起きました。

「蒸気発生器細管には粘りがあるからギロチン破断は起こらない」という関西電力の主張が、真っ赤なウソであることを事実で示しました。原発重大事故が日本でも避けられないことを警告したのです。

事故翌日の抗議行動に続き、2月12日と19日に、全国からの結集の下、関西電力との徹夜交渉を行いました。関電の対応に業を煮やした参加者が本社前に座り込み、逆に関電側が玄関を自らバリケード封鎖するなど、一時騒然となりました。私たちは、関西の市民グループと共に、事故原因を徹底糾明し、関電の責任を追及し、公開討論会を開かせました。この成果をもって福井現地で戸別訪問や新聞折込を繰り返し、原発の危険性を具体的に暴露・宣伝してきました。

この過程で1991年9月に若狭連帯行動ネットワーク(若狭ネット)が結成されたのです。

○私たちは、原発の危険性を具体的に暴露・宣伝した

どうして蒸気発生器細管が、突然に破断したのか、事故原因は究明されておらず、新品に取り替えても解決できないことを具体的に示し、運転再開に反対しました。

その後も、関電が原発事故や問題を起こすたびに申し入れ、継続的に、粘り強く、頑固に関電を追及し続けました。

「1口5百円で百軒に新聞折込」の新聞折込基金は5百万円に達し、福井県下で新聞折込を19回行いました。新聞折込基金を使って敦賀市民アンケートを実施し、敦賀市民の多数が原発増設に反対であることを明らかにしました。



それは、若狭ネットの増設反対請願署名や草の根連帯の敦賀3・4号増設反対県民署名に引き継がれ、県民署名では有権者の1/4に相当する21万名が集約され、若狭ネットも約4万を集めました。

この県民署名に対する若狭ネットの現地行動は33回。初めは戸別訪問で地道な話し込みを行い、途中から土・日連続で毎週、スーパーや駅前街頭に立ちました。呼びかければ応えるという県民の熱い思いを感じました。この県民署名の成功を全国へ広げるため、「福井の風を全国へ」を合い言葉に敦賀で、原発反対福井県民会議と共に原発新增設を止めよう全国交流集会を開きました。この風は、三重県芦浜、宮崎県串間、鹿児島川内、島根の反対運動を勇気づけました。



(1995年1月 原発新増設を止めよう全国交流集会)



10回に及ぶ「もんじゅ」の早朝の核燃料搬入阻止行動は、眠い目をこすりながら毎回欠かさず参加し一翼を担いました。
(早朝のもんじゅの核燃料搬入阻止行動)

○私たちの主張 「直下地震が起これば、原発は耐えられない」

原子力発電所は、地震動の長周期（ゆっさゆっさ）には、平気だが、短周期（ビブリ振動）には、弱い。ビブリ振動の強い直下地震が起これば、原発は耐えられない！

1995年1月17日には、阪神・淡路大震災が起きました。6千名を超える尊い命を奪い、数兆円規模で構造物を破壊しました。阪神高速の橋桁落下は、「日本の高速道路は関東大震災にも耐えられるから大丈夫」と豪語した地震学者や行政の「防災対策」を打ちのめしました。「専門家の安全宣言」の脆さと無責任さが強烈に印象づけられたできごとでした。

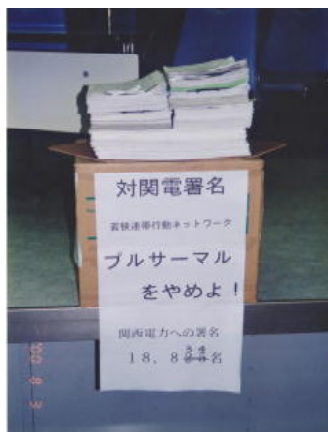


同時に、このような直下地震に原発が果たして耐えられるのが大問題となり、若狭ネットもこれを正面から取り上げました。国の耐震設計審査指針に重大なごまかしがあることを突き止め、科技庁と原子力安全委員会を追及しました。また、M7クラスの直下地震はいつどこで起きても不思議ではなく、これに原発が耐えられないことを明らかにしました。活断層が活発化し地震が多発しており、地震による原発重大事故が危惧されます。

○声高に訴え続けた「プルトニウム利用に反対」

1995年12月8日には、高速増殖炉原型炉「もんじゅ」でナトリウム火災事故が起きました。武生市での討論会で動燃を徹底的に追及し、草の根連帯の22万ものもんじゅ反対県民署名にも、25回の現地行動で4万名以上を集約し、貢献しました。

プルサーマル問題には、1996年末からいち早く取り組み、武生市で関電と公開討論会を開き、福井新聞で紙上討論会を行い、事業者の見解に対する反論冊子を作成し、全関係議員に配布しました。MOX燃料データねつ造問題でも関電本社を継続して追及しました。



2000年8月3日「プルサーマルをやめよ」の署名を関西電力に提出するさよ子 51才



○運動の原点は日高闘争「なぜ現地行動が重要なのか？」

若狭ネットは福井現地と関西都市部を結ぶ脱原発の市民ネットワークです。それは、和歌山県の日高・日置川闘争で反対運動が勝利したこと(1988年日高町比井崎漁協総会で事前調査白紙撤回、日置川町長選反対派勝利、1990年比井崎漁協理事会が「原発にとりくまない」と決定、日高町長選反対派勝利)を教訓としています。

私たちが福井現地での行動に取り組んだ最大の理由は、原発事故、被曝、利権争いなどさまざまな矛盾と対立は現地で発生し、そこで深刻化し、発展しているからです。長い日高闘争の経験から、現地でこそ市民運動の真価が問われ、そこで通用しないような主張や運動は決定的な力になりえないと思うからです。

15基の原発が動いている福井現地では、原発をめぐる雇用・取引関係、地脈・人脈、寄付等金銭的利益関係など、より広く長く深い矛盾と対立が存在します。

事実、最近大問題になったのが、元高浜町助役と関電経営陣の間での、原発をめぐる金品不正環流です。原発を進める関電経営陣が、原発の建設・運転時のトラブルや再稼働のために起こる様々な問題に対処するため、寄付金等で金をばらまき、地元説得役として元高浜町助役を育て上げたのです。ところが、この「地元有力者」が、関電経営陣に札束、金塊、小判、スーツの仕立券などを環流させ、地元産業への発注等で便宜を図るように迫るという贈収賄事件へ発展し、暴露されたのです。元助役はなくなっていますが、不正を働いた関電経営陣は、退職して沈黙したまま、この問題について語らず、責任をとろうとしていません。

困ったことに日本の司法界、特に大阪地方検察庁がこの問題について真摯に対応していないこと、行政も企業に改善命令を出すだけで、原発を推し進めてきた責任についてはなんにも言及していないのです。福井の国会議員も自治体もおこぼれを預かってきたのに、その不正授受が起こる背景を暴こうとしない体たらくです。大きな運動にならないと、動き出さないこの国の体質が問題をこじらせているといえます。

☆若狭ネット第30号1996年12月28日 きよ子47才の暮れ。

「もんじゅを二度と動かすな」県民署名16万名達成！

福井県知事あての「もんじゅを二度と動かさないでください」の福井県民署名運動は、3月より開始され、12月現在、10か月で約16万名に達す。

私たちは、毎月1回、土・日の2日間、福井へ行き、地元の人たちと署名活動

1996年も暮れようとしています。3月から始まった「もんじゅを二度と動かさないでください」福井県民署名、4月はチェルノブイリ事故10周年、関電への申し入れパレード、集会、5月はチェルノブイリ10周年、国際交流と救援のつどい、9月の原発と地震について関電公開説明会、10月の「巻の勝利を全国へ」原発いらへん！大阪集会に加え、月1回の福井現地行動など、振り返れば、よくぞここまでやってこれたなあと思っています。あっという間の1年間でした。

そんな中、若狭ネット事務所が武生で開設され、福井県内署名行動には新たな地元の女性の方々の参加もありました。みぞれ舞う12月7日の署名行動で知り合った福井の方から、なんと年末に越前スイセンの花束が宅配便で大阪事務所に贈ってこられました。本当にうれしい限りです。

美浜事故から5年、これまで何十回となく福井現地に足を運んできましたが、着実に運動が広がっていることを実感しています。今年ほどうれしい締めくくりはありません。来年も私たちの前に課題が山積みであることを知りつつ、力を合わせて、乗り切る覚悟です。共に頑張りましょう。明るい夢をいだきつつ！

きよ子

☆若狭ネット第32号1997年4月5日 きよ子48才

「原発止めよう！大阪集会」（特別報告）「東海村再処理工場 火災・爆発事故」

「もんじゅ廃炉 プルサーマルストップさせよう」

★国の行政改革が叫ばれ、青森県大間に以前に新型転換炉を計画していた電源開発が、改革の対象となっています。動力炉・核燃料開発事業団（動燃）も、組織替えが、ささやかれています。組織かえで、動燃を存続させるのでは、何ら解決できていません。

この間の、原子力開発に対して、抜本的見直しを行い、動燃も科技厅も解体すべきなのだと考えます。

★地球の温暖化を防ぐためにはCO2の排出規制を具体的に提示し、核汚染を防止するためには原発をやめていかねばなりません。浪費社会構造に本当にメスを入れる抜本的な改革が今こそ求められているのに、日本はどこへ進んでいこうとしているのでしょうか。

★鹿児島県の川内で強い地震が起きました。「原発は大丈夫？」と、心配しました。

川内市のみなさん、家は大丈夫でしたか、おけがはありませんか。 きよ子

☆若狭ネット第34号1997年6月12日 きよ子48才

「これ以上の原発はいらない」の敦賀3・4号炉増設反対署名に続き、「もんじゅを二度と動かさないでください」の福井県署名は、16万5千以上集まり、運動は盛り上がってきています。

6月2日には、大阪で、関西電力に「プルサーマル問題」で公開説明会を開かせました。これらの交渉と説明会で、明らかになった、危険で高くつくプルサーマルについて、わかりやすいリーフレットを作り上げ、関西、福井を中心に、広く宣伝し、プルサーマル中止を求めていきたいと考えています。

その一歩として、6月28、29日、福井への署名・ビラ配布行動を計画しました。夏の若狭を見つめて、これからの運動をみなさんと共に担って考えていきたいと思ひます。

・5月26日（月）東京（「もんじゅを二度と動かさないでください」県外署名25,884名を直接、科学技術庁長官に提出し、申し入れし、「プルトニウム政策の転換を求める」質問状を手渡し、2時間あまりの交渉）と、6月2日（月）大阪での関電説明会（関西電力に「プルサーマル問題」で公開説明会を開かせました。これらの交渉と説明会で、明らかになった、危険で高くつくプルサーマルについて、わかりやすいリーフレットを作り上げ、関西、福井を中心に、広く宣伝）と、連続の行動に参加された方々に、ほんとうにお礼をいひます。ご苦労さまでした。

準備する私たちも実は大変でしたが、いろんな用事があるにもかかわらず、こちらの行動を最優先されたことに対して、ほんとうに頭の下がるおもひです。ありがとうございました。また、これからもよろしくお願ひします。忙しくて、当日は参加できないにもかかわらず賛同にご協力いただいた方にもお礼申し上げます。

・原子力委員会／科技厅への質問状に対して、全国各地から賛同をいただき、こころよくカンパも、多数受け取りました。今回のカンパと署名カンパ額をあわせて、約50万円にもなり旅費の半額補填と、印刷、郵送費に使わせていただきました。 きよ子

☆若狭ネット第37号1997年10月5日 きよ子48才。

「もんじゅを二度と動かすな！」の意志を総結集するとき 20万以上をめざす福井の署名運動を支持し、もんじゅ署名福井現地行動に参加してください

9月23日、24日の2日間、ロシアの重油タンカー事故で重油汚染の深刻な被害をもたらされた福井県三国町で、「もんじゅを二度と動かさないで」の県民署名活動を行いました。2日間で約3000名の署名が集まりました。

「もんじゅを動かすのは、あかん」「福井に原発を集中するのは、けしからん」「動燃は、信用ならん」「私ら若いもんも、これは反対です」と、しっかりとした考えで署名される人たちが多くおられ、心強く感じました。

署名の数は署名集めをする人の数に比例し、次から次へと署名がとれます。福井県民の圧倒的多数が「もんじゅ」に反対なのです。署名集めの協力者が増えれば、まだまだ、署名数は増えていくだろうと実感しました。

「秋深し 隣は何を する人ぞ」…… 最近、ご無沙汰しているみなさんに無性に会いたい心境になっています。この秋、私たちは、力量以上の行動を計画しているのかもしれないあと、少々不安です。しかし、推進側は、事故があらうと、多くの国民が不安がってしようと、なりふり構わず、既定の原発推進路線をひたすら走ろうとしています。

民主主義社会の実現には向かわず、さらに遠のくのではと、非常に危険を感じるのは、私だけでしょうか。人をより深く愛することのできる秋です。みなさんといっしょに行動できたらどんなにか、うれしいことでしょう。 きよ子

☆若狭ネット第48号1999年3月9日 きよ子、50才

○世界一の「原発長寿国」をめざそうとする日本

ヨーロッパでは、脱原発・脱プルトニウムの動きが高まっています。

日本に目をうつしますと、あいもかわらず、原発・プルトニウムの推進が声高に叫ばれています。「地球温暖化防止(CO2削減)のために原発を！」と、平然とウソの宣伝をしたり、ボロボロになった蒸気発生器を丸ごと取り替えたり、原子炉容器の上ブタを交換したりしながら、いわゆる「だましだましの運転で原発を60年運転しても大丈夫」などという、とんでもない動きが出てきています。世界一の「原発長寿国」をめざそうというのです。

○プルサーマルなどによる原発重大事故の危険

TMI事故は、原発の炉心が溶融するという、絶対にあってはならない重大事故が実際に起こることを事実でもって示しました。しかも、ささいな故障から事態が進み、原発のかなめである核燃料棒が冷やせない状態に陥り、燃料棒がドロドロに融けたのです。アメリカでは、この事故により脱原発の流れが強まり、これ以降、原発新增設の動きはなくなりました。福井では1981年に敦賀原発事故が起き、1991年には美浜事故が起きました。そして、高速増殖原型炉「もんじゅ」でナトリウム火災事故が起きるなど、原発事故が多発しています。プルサーマルや原発の老朽化が進めば、重大事故の危険が一層高まります。阪神淡路大震災を初め、最近の活断層の活発な動きの中で、直下地震による原発重大事故の危険が迫っています。地震は避けられませんが、原発を止めれば、地震による重大事故は防げます。プルサーマルや原発の寿命延長をやめさせ、一日も早く原発を止めていかねばなりません。

和歌山県の日高原発計画反対運動の中で、私たちは、「これは現地だけの問題ではなく、もし、原発重大事故が起これば、都市部の大阪・兵庫・奈良・京都なども、放射能汚染で、健康や生活がめちゃくちゃになる」

と訴えてきました。このような運動がじわじわと浸透し、また1986年のチェルノブイリ事故で被害の深刻さが目のあたりに明らかになった結果、日高原発計画を撤回させることに成功し、勝利したのです。

日高町へ初めてビラを持って入ったときも、美浜事故以降に美浜町へ入ったときも、「よそ者が何しにきた？」との雰囲気がありましたが、毎月の戸別ビラ入れを粘り強く取り組んだことで、徐々に信頼が得られ、運動に共感する人々が着実に増え、敦賀3・4号炉増設反対の福井県21万人署名、もんじゅ反対の22万署名へとつながっていったのだと自負しています。

「編集後記」

「ローマは1日にしてならず」のことわざどおり、運動とは地道で粘り強い闘いの積み重ねであること、そして、反原発こそが私たちの健康や生活を守ることであることを訴えていくことではないでしょうか。

きよ子

☆若狭ネット第52号1999年11月21日 きよ子50才。

9月30日東海臨界大事故「東海臨界事故を高浜でくり返させないため対関電緊急署名に御協力を」

★なんとしても原発をとめなくては！

9月30日の東海村のウラン燃料加工施設で起きた臨界事故は、日本の原子力史上最悪の大事故でした。労働者3名が一瞬にして、広島原爆の爆心地700m～1kmに相当する強烈な中性子線を浴び、事故を鎮めるための「決死隊」の緊急作業員も高線量の被曝にさらされました。周辺住民の多くも知らない間に公衆の年間線量限度を超えて被曝させられました。「ぜったいに起こりません」と、原子力を推進する人たちが言っていた「労働者・住民の高線量被曝事故」が、日本で起こった。

この事故は、「原発推進・プルトニウム利用政策の牽引者に」と胸を張って豪語していた原発推進者の中でも、「このままでは大変なことになる」との声が出始めたのです。

・日本の原発推進にマッタをかけなければ、放射能大量漏れ重大事故を起こしてしまうという実感が、ヒタヒタと肌で感じさせる東海村の臨界事故。今まで声高に「安全」を叫んできた原発推進者は、どんな弁明をするのでしょうか。

新幹線のコンクリート落下、H2ロケットの打ち上げ失敗、プルサーマル実験と、危険な社会をつくってしまった責任はだれにあるのでしょうか？

きよ子

☆若狭ネット第53号1999年12月25日 きよ子50才

関電が高浜4号プルサーマル計画大幅延長 プルサーマル計画中止へとさらに前進しよう 高線量被曝した大内さんが亡くなる

12月21日、大内さんが死亡されました。ここに慎んで哀悼の意を表したいと思います。死亡の原因は、9月30日、東海村JCOの燃料加工工場でウランの臨界事故が起こり、16～20シーベルトもの高い被曝線量をうけたことです。広島原爆の爆心地で被曝した被害者に匹敵する高い線量でした。このような深刻な事態を招いたウランの量は、わずか1ミリグラムといわれています。この量は、なんと耳かき1杯分のさらに千分の一なのです。改めてこわさを再認識させられます。

このような事故を招いた大きな責任は、燃料加工を安くすることを徹底的に追求する原子力を推進する会社にあります。安全性軽視がはびこり、安上がりの操作が平気でまかり通る状況だったのです。これは、JCOという一会社だけの責任ではありません。原子力を推進してきた政府、原子力メーカー、電力会社側

の徹底した原発の経済性追求の結果なのです。今まで、原子力関係機関は、「安全を最優先して来ました」とウソをついてきたことに対して、正直にあやまり、真摯に反省し、原子力を推進すべきではなかったと、自己批判すべき時期なのです。しかし、残念ながら、いまだに一切そのような意思表示をした人を聞いたことがありません。

12月16日、関西電力は、高浜4号炉MOX燃料ペレットにもねつ造があったとして、プルサーマル計画の大幅延長を発表。

「編集後記」

関電が、ついに外国からの圧力によって、高浜4号へのMOX燃料装荷を断念しました。 私たちが、何度も交渉に行って危険な動きを指摘していたのに、一向に耳をかそうとはしなかったのに、外国から指摘されるとやめるといういつものパターンです。何とも情けない話ですね。ともあれ、燃料装荷を大幅延期したことにホッとしています。

・12月23日、3回目の街頭署名をおこないました。

前日、大内さん死去のニュースを聞いて二度とこのような事故をくり返さないためにプルサーマル発電中止！新規原発計画反対！を訴え、署名をとりました。

大阪梅田ロフト前には、若者はもちろんクリスマスのプレゼントを買いに来る親子連れも多く、大内さんの死に心を痛めておられる人も多くいました。ここは、遠いところからも買い物に来ます。広島・岡山・三重・愛知・京都・奈良・滋賀と様々でした。福井の敦賀市で関電関係につとめているから申し訳ないが署名はかんべんして下さいという方もいました。いろいろですね。

来年こそ、反原発元年にしたいですね。

きよ子

☆若狭ネット第55号2000年3月2日 きよ子51才

芦浜原発計画白紙撤回、バンザイ！

2月22日、三重県北川知事が、芦浜原発計画の白紙撤回を中部電力に求め、中電も計画を断念しました。この大勝利は、37年にものぼる粘り強い芦浜原発反対運動の成果です。地元南島町を始め、反対運動を続けてこられた人々の力強い闘いがあったからです。

以前に三重県では80万人署名を達成しました。その署名運動は、福井でおこなった敦賀増設反対運動の21万人署名が契機となり、福井の風を芦浜に吹かせることができ、今回の成果につながったとも言えます。共に喜びたいと思います。

次は、芦浜から福井にこの反原発の風を吹かせる番です。私たちも元氣を得てがんばらねばなりません。

☆若狭ネット第57号2000年4月11日 きよ子 51才

○関電は、私たちの健康をおかすモンスターに見えてきます

原発は、コストが高くつくにもかかわらず、安いと宣伝していた手前、原発の徹底した経済性追求が、電力会社にとっても重要な課題となってきました。

そのため、関電も発電設備の投資を遅らせたり、発電所を止めるなどして、発電コストが上がらないように必死になっています。「手抜き」でのりきれんなんて とんでもない 関電の原発が「安上がり」になる対策を見ますと、

① 動かした原発はできるだけ止めないで、400日の長期連続運転をめざす。

- ② 原発の定期検査は、昼夜突貫の点検・補修で、40日に短縮する。
- ③ 30年以上運転した寿命間近の原発でも60年に引き揚げる。
- ④ 関電も人員削減とコストダウンを徹底する。

このように私たちの前に立ちのぼる原発は、私たちの生活をおびやかす、健康をおかすモンスターに見えてきます。

この関電の「手抜き」対策の結果、4年後の2004年8月に、作業員11名が死傷する大災害がもたらされたのです。2004年8月9日午後3時22分頃、原発美浜3号炉で、2次系復水系配管が大破断するという大事故が起き、5名の作業員が亡くなり、5名の方が重傷を負って病院で治療を受け、1名の方が自宅療養になりました。私たちは翌日、関西電力へ緊急申し入れを行いました。定検期間短縮のため原発の運転中に定期検査の準備をさせていたときに起きた人災だったのです。この配管は、運転開始から一度も点検しなかった配管で、取り替えるチャンスがありながら、取り替えなかった人災事故でもありました。配管破断時刻がもう少し遅ければ、より多くの作業員が休憩から戻っていたため、被災者がもっと多かったかもしれないとも言われています。私たちは公開質問状を突きつけて、関電の責任を徹底的に追及しました。



美浜3号2次系配管開口破断事故
(2004.8.9 腐食による破断、定検準備中の下請労働者5名死亡、6名火傷)

・ 対関電署名も、新聞折込基金もみなさんのおかげで、たくさん集まりました。

ヒバク反対キャンペーンから、JCO事故の責任を追及する対政府署名を開始することの連絡を受けました。今度は、多くの署名賛同が必要となります。地元「臨界事故被害者の会」が署名運動の中心としてがんばるそうです。応援しましょう。 きよ子

☆若狭ネット第58号2000年8月26日 きよ子51才

あつーい あつーい 夏のたたかい

関電は自己責任でプルサーマルを中止せよ！ 英・仏再処理契約を破棄せよ！

8・3公開討論会で関電を追及

関電を追及する その① 関電は自己責任を取れ

2年前に、MOX燃料を利用する了解を福井県に得ないまま、関西電力は勝手に、1998年1月、MOX燃料加工をイギリスBNFLに発注しました。関電は、「加工発注は自己責任で行っている」と居直りましたが、関電はBNFLでは品質保証はクリアできないことを知りながら、加工精度が悪く、少々不安定な製造工程でも、安上がりに済ませるため、そのまま認め、その後のチェックも十分しなかったのです。

関電を追及する その② 関電はウソツキの責任を取れ

福井県武生市で1998年4月に開かれた若狭ネットとのプルサーマル公開討論会で、関電は「BNFLのMOX燃料加工工場ではトラブルや不良はない」「自らペレットの品質管理をやっている、直接現地で検査している」と、安全のために徹底したMOX燃料検査をしていると、ウソをついたのです。

関電を追及する その③ 欠けたペレットを合格させる？

MOX燃料ペレットに使われるプルトニウムは臨界事故を起こしやすく、強い放射線を出す超猛毒物質であるため、燃料加工そのものが極めて困難です。ペレットの外径を精度良く加工できないだけでなく、ペレットの両端に微細な欠けが生じていたのです。

この欠けを検出しないように外径を測定するペレットを中央寄りに操作。関電もそれを了承していたのです。

8月5日広島へ行きませんか？

今年は広島・長崎原爆投下から55年、20世紀最後の夏に被爆地広島へ行きませんか？アメリカ・フランス・中国・インド・パキスタン等で核実験が強行されました。そのつど、いつも平和公園で座り込み抗議行動を続けてこられたヒバクシャの人たち。JCO臨界事故で被曝させられた東海村の人たちと共に、国の原子力推進の根本的見直しを迫り、二度とヒバクシャを出させないため、「ヒバクを許さないつどい」に参加しましょう。

広島を初めて訪れる方は集会前に一緒に平和公園・資料館を見学しましょう。

参加ご希望の方は久保までご連絡下さい

きよ子

☆若狭ネット第60号2000年9月25日 きよ子51才

東海JCO事故をくり返さないで！ プルサーマル中止！ BNFLと新契約を結ぶな！

10.2 JCO事故1年、10.26 反原子力デー 関電へ行こう

10・15 反原発の集いと10・26 反原子力デー関電交渉に参加を

この3月から始まった日本の部分的電力自由化は、原発のような大型発電所の建設を遅らせる方向に働いていますが、国は、多額の買収費をばらまき、地域振興法案を画策し、原発新增設をすすめようとしています。また、電力会社は、原発の競争力を維持するため、定検期間の3か月から40日への短縮、事故件数の少ない原発の定検省略、連続運転期間の13か月から18か月への延長などを目指しています。そして、少々のことでは、原発の運転を止めない衝動力が強まるでしょう。

・推進側は、9月30日を「原子力安全の日」として、キャンペーンをする。

原子力の関連企業は、生き残りをかけ、何とか安上がりにはできないかと、腐心している。安全を叫ぶとき、本当は安全をおろそかにしているという反省がある。

しかし、今回の場合、国は、反省などしていない。「原発は絶対安全です」から「原発には事故があることを前提に」と、いいだすありさま。それでも、原発は必要だとして、いまだに推進することを大宣伝している。

核燃料サイクル政策が事実上破綻しているにもかかわらず、まだ続けようとする方向を打ち出すおろかさ。21世紀は原発のない世界にしたいものです！

きよ子

☆若狭ネット69号2001年12月27日 きよ子52才

原発推進を教育現場に持ち込むな！「勇み足」でたじろぐ文科省に追撃を！

再度質問書を提出し、原子力教育支援交付金を断念させよう！

21世紀初めの2001年も後わずかとなりました。

12月26日、関電は、フランスでのMOX燃料加工を中止すると発表しました。やったあ！と、喜んだのもつかの間。原電の敦賀3・4号炉増設計画は、「環境影響評価書」を経済産業省に提出したとの報道。こんちくしょう！

2月中にも第1次公開ヒアリングかも？ このニュースをつくっている最中でした。世

間は、確実に脱原発社会をめざしているというのに。

国の政策は、あいもかわらず原発推進政策を掲げて邁進しています。学校教育までも、国によって原子力推進教育を総合学習で、取り入れようとする反動化まで現れてきています。許せません。来年度の予算の動きを注目しながら、新たな年を迎えることになりました。

来年もよろしくご声援をお願いします。

きよ子

☆若狭ネット第71号2002年 3月15日 きよ子53才

○教え子を原子力の犠牲者にするな！

2月14日には「原子力教育支援事業交付金創設」に関する2回目の文部科学省交渉を行いました。昨年の12月の交渉に続き、全国各地から51団体、163個人の賛同を得、当日は平日にもかかわらず40名にも及ぶ参加があり、共に迫りました。

交渉では、「原子力教育」に「エネルギー教育」という文言を入れたことで「原発推進一辺倒ではない」と言い逃れようとしていました。また、「この交付金は、特定の政策を画一的、統一的な指導を行うものではない。押しつけ、強制ではない」と強弁し、自治体を支援、自治体の計画を推し進めるものだとし、逃げをはかりました。

私たちは、この交付金は、原発推進のための使い道とする目的税を財源にしている、原子力推進教育を前面に出している、一方に偏った原発推進政策のための宣伝教育は憲法や教育基本法に違反していることを指摘し、交付金創設の撤回を迫りました。

私たちの正当な主張に対して、文部科学省は、「もう予算案は、文部科学省から離れましたので、変更はできないのです」と、言わざるを得なくなりました。

・3月3日福井県美浜町で町議会議員選挙の投票が行われました。原発反対を掲げて選挙戦を闘ってこられた松下照幸さんが、再選されました。美浜町という原発推進の町で2期目の当選を果たされたことは、大変なことであると労をねぎらうと共に、確実に町の住民に支持されていることを実感します。

反原発運動は、社会正義の闘い、子孫を守る闘い、住民の心を安らかにする闘いとして、今後も一緒になってがんばりたいです。 本当に嬉しいことです。 きよ子

☆若狭ネット第73号2002年 9月18日 きよ子53才

【東京電力の原発不正隠し事件が発覚】

東電の体質―「原発の経済性を求め、ごまかそう！ みんなでかくせばこわくない」

保安員、国の役人の体質―「『異常なし』と報告を変えれば、運転出来ます」

原発の検査制度の緩和なんて とんでもない 許さないぞ！

「これからは原発でヒビが見つかったも、運転を認める検査制度に改め、原発の経済性を追求します」
なんて とんでもない

2002年8月29日、保安院が、東京電力の福島第一、福島第二、柏崎刈羽の原発13基で、80年代後半から90年代にかけ、自主点検で見つかったひび割れなどのトラブルの検査結果や修理記録など29件に虚偽記載があったと、公表しました。ところが、原発8基でひび割れなどが修理されずに残っている疑いはあるが、「原子炉の安全性に直ちに重大な影響を与える可能性はない。」と運転継続を容認したのです。とんでもないことです。

・これまでは、まがりなりにも「日本人は、礼儀を重んじ、勤勉である」というプラスの評価でした。しかし、今回の東京電力というトップ企業の事件によって、「日本の企業は、平気でウソをつき、役人はその企業を擁護し、今までの『安全文化』を自らの手で崩壊させるものである」ということを世間にさらしました。

東京電力の企業体質の悪辣さは、万死に値するといっても過言ではありません。原発を推進する資格など、まったくない企業だったとは・・・。

私事ですが、9月18日から9月末までベラルーシへ行きます。 きよ子



☆25年前、1995年12月8日に高速増殖「もんじゅ」で火災事故、2016年廃炉決定。しかし、2020年5月14日、日本原燃が建設中の使用済み核燃料再処理工場（青森県六ヶ所村）の安全対策が、原子力規制委員会の審査に事実上合格

☆若狭ネット第21号1996年1月28日 きよ子47才。

1995年12月8日に高速増殖「もんじゅ」で火災事故が起こり、「もんじゅ」の事故でゆれうごく若狭から、新年のメッセージが福井の中嶋哲演さんから、送られました。

「高速増殖炉“もんじゅ”と新型転換炉原型炉“ふげん”の名称は、釈迦如来の左右の脇士、文殊菩薩と普賢菩薩に由来します。文殊、普賢の両菩薩はそれぞれ、知恵と慈悲を象徴し、獅子と象に乗っておられます。それは強大な力を持つ巨獣を知恵と慈悲で完全にコントロールし、科学と共学の調和の上に立つのでなければ人類の幸福は望めません。」（“もんじゅ”の事故を起こした動燃事業団のパンフレットより）

「二つの武器とは慈悲（痛みの共有）と洞察であり、しかもそれらは相伴わなければならないということだ。慈悲の心がなかったら、行動のためのエネルギーや情熱がわいてこない。世界の痛みに対して自分を開いたとき初めて、私たちは行動を起こすことができる。けれども、この武器だけでは不十分だ。それは私たちを消耗させかねない。そこで必要なのがもう一つの武器—全ての現象の根源的な相互依存性を見抜く洞察である。シャンバラ（チベット仏教に伝わる理想郷）の戦士一人ひとりの中で、また戦士同士の間でこの両方がそろったとき、二つの武器は全面的な変革の担い手としての私たちを支えることができる。これらは、世界を癒すために、私たちが今受け取るべき贈り物なのだ。」（世界は恋人 世界はわたしより）

（福井県小浜市 哲演）

2020年5月14日、日本原燃が建設中の使用済み核燃料再処理工場（六ヶ所村）が、原子力規制委員会の適合性審査に事実上合格しました。これは、「再処理に向けた一歩」と宣伝されていますが、高速増殖炉開発はすでに破綻していて、英仏に保管中のプルトニウム36.7t（2018年末、国内9.0tとで計45.7t）を減らせない現状では、再処理工場を操業させることはできません。無理に操業させれば、国内にはMOX加工工場がなく、分離プルトニウムが年間7トンも増えてしまうため、原子力委員会は操業許可を出せないのです。国内にMOX加工工場ができたとしても、仏MOX燃料より数倍高がつき、電力自由化の下でプルサーマルを実施できる原発はなくなるでしょう。

日本政府が核燃料サイクル政策を推進したのは、化石燃料などの資源に乏しい日本のエネルギー供給に必要なとの理由からで、再処理で抽出したプルトニウムを次世代高速増殖炉で利用することが狙いでした。ところが、もんじゅが事故続きで廃炉になってプルトニウム利用の本命が消えたのです。本来なら、ここで核燃料サイクルを転換させるべきところですが、プルサーマルにしがみついています。実際にプルサーマルを実施できる原発は4基(伊方3号、高浜3、4号、玄海3号)だけで、四国・九州電力の仏保管分はほとんどなく、英保管分はMOX加工できない状態です。プルサーマルは原発重大事故の危険を高めるだけでなく、永久貯蔵を余儀なくされる使用済MOX燃料を生み出します。この使用済MOX燃料は使用済ウラン燃料に比べて超ウラン元素の量が1桁高く、中性子線量が高く、発熱量(崩壊熱)が下がりにくく、乾式キャスク貯蔵可能なレベルへ下げるにはプールで90年以上冷やす必要があるのです。プルサーマルも中止し、原発・核燃料サイクルを根本的に転換すべきです。

☆若狭ネット最新号第181号2020年4月24日より 編集後記 新型コロナウイルス感染症の「セルフチェック」を――加害者にならず、被害者を作らないために――

・咳、発熱、倦怠感、息切れ、呼吸苦、筋肉痛、喉の痛み、頭痛、原因不明の味覚・嗅覚障害、下痢の症状が出現した場合には感染を疑いましょう。

・人と人との密接な接触、咳やくしゃみによる呼吸飛沫を介して広がります。せっけんと水で1から20まで数えながら手を洗いましょう。

・10年前のフクシマ原発事故で、正確な情報がきちんと伝わらなかったため、「ヒバクしないための避難」で、逆に、「まともに被ばくしてしまった」という苦い体験がありました。事故を起こした責任ある東電や国は、事故を小さく見せたり、隠したりせず、正確な情報が素早く提供されることが「命や健康を守るため」に必要な不可欠だと教えられました。命と健康を守ることを第1に考えるなら、「脱原発社会」を早急に実現させねばなりません。

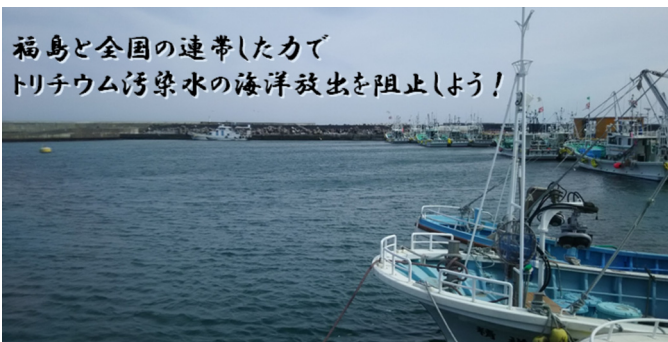
今世界中にひろがっている「新型コロナウイルス」でも、同じことが言えます。

正確な感染防止術、感染状況など、正確な情報提供が大切です。しかし、日本では「情報公開」が常に世論操作と一体となって、発表する側(権力を握る人たち)の都合で操作されているのでは、と感じてしまうのです。それは私だけでしょうか。 きよ子

あとがきにかえて

2020年新型コロナウイルスの出現で、活動が自粛されたおかげで、過去の運動から学びなおすことができました。

フクシマ原発重大事故を起こす前から、私たちの反原発・反核燃サイクルの主張が正しか



福島と全国の連帯した力で
トリチウム汚染水の海洋放出を阻止しよう!

ったことを改めて確かめることができました。

これまで、私たちを支えていただいた方々への感謝の一端となれば幸いです。

これからも、絶大なるご支援をいただければ、うれしいです。

2020年5月25日 記

「トリチウム汚染水の海洋放出に反対する署名」を広げてください ○第1次集約6月末、最終集約8月末